

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学概論 / 臨床心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3134
2. 授業担当教員	大住 誠		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「人格心理学」「心理療法概説」を履修・修得することが望ましい。		
7. 講義概要	臨床心理学として、その成り立ち、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 6. スクールカウンセリングについて理解をし、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には必ず該当部分に通し、疑問点を明確にしておく。 ・2回レポートを提出する (A4 用紙2 枚、2,400 字以上)。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の心理的問題 将来臨床心理士や公認心理師を目指す場合、子どもだけでなく、大人であっても幼児期の心理的問題を押さえておくことは大切である。そこで、本テーマについて調べ、自分なりの意見を述べなさい。 2. 青年期の心理的問題 続いて、大人である青年期の心理的問題を押さえておくことも大切である。数ある中から一つを取り上げ、どれがどのような問題か説明し、自分なりの意見を述べなさい。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 丸島令子・日比野英子編著『臨床心理学を基本から学ぶ』北大路書房、2004。</p> <p>【教材】 毎回資料を用意し活用する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患・発達障害を含めた心理的問題を抱える人の心理の理解 2. 各発達段階における心理的課題と障害の理解 3. 代表的な心理臨床の理解 4. 心理アセスメントの考え方と方法の理解 5. 主要な心理的援助の理論と技法の理解 6. スクールカウンセリングについての理解 <p>○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 レポート課題 40% 授業への参加 30% 発表 30% 以上で評価を行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は、全体像が分かり、読みやすいものを採用したので、しっかり勉強して、基本的な知識を身につけること。 ・臨床心理学は、カウンセラーなどをを目指す心理学部の学生には必ず役立つはずである。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。 		
13. オフィスアワー	原則週に2コマを第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (講義概要の解説)	事前学習	テキストのまえがきと目次を読み、概略を理解する。
		事後学習	興味をもった内容についてテキスト・辞典で調べてノートにまとめる。
第2回	臨床心理学とは何か (臨床心理学の来た道、おもな学問分野、アセスメントと心理療法・援助の技法)	事前学習	テキスト pp.1~9 臨床心理学の3つの柱について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「精神分析」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第3回	無意識と欲動の心理学 (心的装置、リビドー、心の葛藤と防衛、フロイトの発達論)	事前学習	テキスト pp.9~16 を読み、フロイトの発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「局所論」「構造論」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第4回	自我心理学 (自我心理学への展開、分離・個体化理論、心理・社会的発達論)	事前学習	テキスト pp.16~27 を読み、エリクソンのライフサイクルの発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「モラトリアム」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第5回	対象関係の心理学 (分析心理学、対象関係論、クライン、ウィニコット)	事前学習	テキスト pp.27~37 を読み、分析心理学、対象関係論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「原始的防衛機制」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第6回	共感の心理学 (共感とは、カウンセリングにおける共感、マイクロカウンセリング、かかわり技法、積極的技法、閉じられた質問・開かれた質問)	事前学習	テキスト pp.37~48 を読み、クラインエント中心療法について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「カウンセラーの3条件」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第7回	実習(事例研究:インシデント・プロセス方式)	事前学習	インシデント・プロセス方式について調べて理解しておく。
		事後学習	事例および事例研究について感想をノートにまとめ提出する。
第8回	乳幼児期から児童期の子どもの心と心のつまずき (フロイトによる心理・性的発達論、エリクソンによる心理・社会的自我発達論、その他の精神学的発達理論、臨床心理学と発達心理学の出会い)	事前学習	テキスト pp.49~62 を読み、フロイトの心理・性的発達論とエリクソンの心理・社会的自我発達論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「エディプス・コンプレックス」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第9回	思春期から青年期の心と心の迷い (青年期の年代区分、不登校・引きこもりの諸相、非行・逸脱行為の諸相、親離れと自立)	事前学習	テキスト pp.62~68 を読み、ギャングエイジから大学生までの青年期の区分について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「境界パーソナリティ」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第10回	レポート発表(思春期・青年期の心理的問題)	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する(レポートを修正して再提出してもよい)。
第11回	児童期・思春期の心理的問題 (知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、いじめ、不登校、選択性緘黙、児童虐待、少年非行、家庭内暴力)	事前学習	テキスト pp.69~77 を読み、児童期・思春期の諸問題について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	自分が興味をもった問題の一つ取り上げて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第12回	大人の心と心の病とゆがみ (エリクソンの生涯発達の成人3段階の人格論、レヴィンソンの「人生の四季」、成人の発達モデル「無段階論」、大人の「永遠の少年」現象、不良老人)	事前学習	テキスト pp.78~87 を読み、段階論と段階論と無段階論について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「大人の心の病」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第13回	実習(事例研究:子どもの事例)	事前学習	事前に事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	興味をもった概念・病理について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第14回	心理アセスメント1 (心理アセスメント実施の際の諸注意、心理検査の選択、観察法・質問紙法)	事前学習	テキスト pp.88~106 を読み、心理アセスメントの分類について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「妥当性」「信頼性」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第15回	心理アセスメント2 (ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査、集団式知能検査、グッドイナフ人物画知能検査、発達検査、知能・発達検査の危険性)	事前学習	テキスト pp.106~113 を読み、知能指数と偏差IQの違いについて理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「1歳半健診」「3歳児健診」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第16回	心理アセスメント3 (投影法の特徴、P-F スタディ、バウムテスト、ロールシャッハ・テスト)	事前学習	テキスト pp.113~120 を読み、投影法がどのようなものか理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「テスト・バッテリー」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。

第17回	実習（心理検査：バウムテスト）	事前学習	テキストの「心理アセスメント実施の際の諸注意」pp.89～90を読み、問題意識を明確にしておく。
		事後学習	バウムテストの解釈について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第18回	心の診断基準とその背景 （精神医学史と疾病分類の確立、米国の力動精神医学からDSM-IVへ、DSMの流れと国際疾病分類との関係、DSM-IVの特色、「神経症」の各病型とDSM-IVにおける表現型）	事前学習	テキスト pp.120～126を読み、疾病分類の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	DSMの「多軸診断」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第19回	カウンセリング （臨床心理士とは、カウンセラーの仕事、カウンセリングにおける留意点、症状のとらえ方、論理的普遍性と臨床的個性）	事前学習	テキスト pp.127～136を読み、臨床心理士の活動について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「治療構造」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第20回	カウンセリングのビデオ視聴とディスカッション	事前学習	事前に pp.127～136 のカウンセリングの部分を読み返しておく。
		事後学習	興味をもったカウンセリングについて参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第21回	箱庭療法 （箱庭療法の歴史、箱庭療法の実際、ユング心理学と箱庭療法の理論、日本における箱庭療法の現状、箱庭療法の訓練）	事前学習	テキスト pp.136～145を読み、箱庭療法の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「象徴」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第22回	補足と事例研究（箱庭の事例）	事前学習	事前に箱庭事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	箱庭療法の別の事例について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第23回	遊戯療法 （遊びとは、遊戯療法の基礎的理論、遊戯療法の枠組み、対象、遊戯療法の過程）	事前学習	テキスト pp.146～155を読み、遊戯療法の概要について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「アクスラインの8つの基本的原理」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第24回	レポート発表（子どもの遊戯療法事例）	事前学習	参考文献を調べながらレポートを作成し提出する。
		事後学習	指摘された点について再考する（レポートを修正して再提出してもよい）。
第25回	行動療法 （行動療法の原理、オペラント法と現実的脱感作法、逆制止法と系統的脱感作法、強化消去法、嫌悪療法、モデリング法）	事前学習	テキスト pp.155～167を読み、行動療法の基本について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「不安階層表」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第26回	認知療法 （認知療法の原理、認知療法の治療法、認知行動療法）	事前学習	テキスト pp.167～173を読み、ABC図式について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「ソーシャル・スキル・トレーニング」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第27回	エンカウンター・グループ （エンカウンター・グループとは、エンカウンター・グループの実際、ロジャーズという背景、有機体としてのグループ、ファシリテーターの非促進的行動）	事前学習	テキスト pp.173～181を読み、ベーシック・エンカウンター・グループの基本について理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「ファシリテーター」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第28回	実習（事例研究：大人の事例）	事前学習	事前に事例の資料を読んで、自分なりの理解をしてくる。
		事後学習	興味をもった概念・病理について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第29回	臨床心理士になるためには （臨床心理士制度の概略と、臨床心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、臨床心理学の研究、臨床心理士の倫理）、スクールカウンセラー	事前学習	テキスト pp.182～193を読み、臨床心理士になるために何が必要かについて理解し、疑問点を明確にしておく。
		事後学習	「スーパービジョン」について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。
第30回	まとめ（用語・概念を中心に復習する）	事前学習	テキストに出てきた用語について分からないものを確認する。
		事後学習	配布されたプリントを使って用語・概念について参考書などでさらに調べて理解した内容をノートにまとめる。